

11. 卒業後の進路—就職について—

大学卒業後、あるいは大学院修士課程・博士課程修了後に、ほとんどの学生諸君は就職という進路を取ることになります。就職のための活動、いわゆる「就活」は、各自の責任と判断で行うものですが、大学や電気電子情報工学科では、就職に関する様々なサポート体制を整えています。

● 大学の就職課・KU キャリアナビを利用しよう

企業の情報を収集するためにインターネットを利用する人は多いと思いますが、インターネット上の情報は全国の大学生が参照しているものです。大量の情報の中から自分に合った企業を見つけ出すのは至難の業です。

当学科には1939年の学科開設以来の長い歴史があり、これまでに学部生1万3000人、院生450人以上を卒業生として社会に送り出してきました。このため、各界で活躍しているOB/OGを中心に多数の優良企業から求人の依頼が数多く寄せられています。

これらの企業情報は、大学の就職課にある就職資料室で整理されています。就職資料室では、企業から送られてくる求人票やパンフレット、先輩の就職活動の記録などを自由に閲覧できるようスペースが用意されています。

また、就職課には電気電子情報工学科専任のスタッフが常駐しており、皆さんの就職を全面的にお手伝いしています。さらに学科の専任教員が就職課と協力して就職のサポートや相談に当たっています。

就職課を訪れる時間がない人でも、これらの企業情報は、Webステからアクセスできる「KUキャリアナビ」というサイトでいつでも閲覧することができますようになっています。

他にも23号館6階の掲示板に学科の就職担当教員が直接面談した企業の求人情報などを掲示しています（ドットキャンパスにも同じ内容が掲載）。さらに学科同窓会でも、皆さんの先輩方が就職のサポートを行っています。これら様々なルートで自分に必要な情報を入手するようにしてください。

● インターンシップは3年次夏期に（大学院の場合には1年次夏期）

インターンシップは、3年次及びM1夏期のインターンシップ実習参加希望者を対象にして、社会人と協働するために必要な意識と姿勢、職場実習での要件を理解・習得をテーマに取り組みます。実践の場を教材にして、「働くとは何か」「自分は何に向いているのか」などを肌で感じとる場、それがインターンシップです。実際の就職活動を始める前に、将来への目的意識を明確にしていくため、インターンシップを通じて何を得たのかを考え、企業を選択することにつなげていきます。また参加した学生は、ほぼその会社から内定を得ています。

● 就職活動のポイント

皆さんが就職活動を始めて最初に直面する壁の一つが、企業に提出するエントリーシートでしょう。多くの企業で必ずといっていいほど聞かれる項目は、

- ① 自己PR
- ② 学生時代に力を入れたこと
- ③ 志望動機

の3点です。これらの項目はお互い独立したものではありません。要は、「自分はどのような人物で」「これまでにこういう成長をしました」「だから貴社を志望します」とつながっていくものです。これらについて、「自分の言葉」で生き生きと表現することが必要です。

ここで「自分の言葉」とはどのようなものでしょうか？自分が他人のエントリーシートを読むことを考えてみてください。誰が書いても同じ内容のエントリーシートが印象に残りますか？自分の言葉というのは、自分の経験をもとに自分にしか言えない言葉です。単に目立てばいいということではなく、自分が志望した企業とマッチすることを具体的な理由で伝えることがポイントです。

そういうことから、自分の言葉でエントリーシートを書くには、これまでの大学生活をいかに有意義に送ってきたかにかかっているということがわかるでしょう。与えられた授業を受けるだけでなく、そこから自主的に行動することが必要なのです。つまり、就職活動は大学に入学したときからすでに始まっているのです。

そうは言っても、何をやっていいかわからない、自らの「可能性」に気が付かない、といったこともあるでしょう。そういう場合は、一人だけで考え込まずに、研究室の先生、就職課のスタッフをはじめ、両親や兄弟・友人など多くの人と語りあうことを勧めます。

